

第2回 『種まき、田起こし』

と き 2012年4月21日(土) 9:30 - 17:30

ところ 谷っ戸ん田、作業小屋

天 気 曇り時々晴れ

参加者 石田・ヒデ、磯、梅下早苗・日菜子・浩太郎・裕次郎、加藤、霧生、久保、佐々木利江、高田裕司・直子、高橋、松本洋子、園主 計16名(子ども5人含む)

【午前】

- ・ 米の種蒔きをする。
- ・ 種籾は園主が用意。ウルチ(コシヒカリ)が約一斗、モチ(満月)が3.7升。うち、モチ3kgは谷っ戸ん田米。松本さんが水曜日に園主に手渡ししたもの。
- ・ 木曜日から2日間浸種した。消毒液に浸されている種籾をゴザの上で乾かす。浸種した種籾は芽がふくらんでいて傷み易いので、ゴザに広げる時に揉まないようにすること。
- ・ 小屋の前での種蒔き作業。用具類を持出し、土入れ・播種機を組み立てる。
- ・ 播種機を持出す際に、水パイプのジョイントを折ってしまうトラブル。園主の応急処置でなんとかかぶり。
- ・ 播種機の設置には水準器があるとよいかもかもしれない。次回考慮すること。
- ・ 苗箱の土は「ヤンマー すこやか培土 ゼオライト入り」。Net 24リットル。
- ・ 培土の量は苗箱1箱あたり4リットル。
- ・ 種籾の播種量は苗箱1箱あたり2合が基準とのこと。ウルチの苗箱を50、モチを12作った。モチの種籾は大分余ってしまった。
- ・ ウルチ、モチの見分けがつくように、苗箱の種類を変えてある。
- ・ 浴槽に消毒液(ケシクロン)を適量溶かし、苗箱を消毒した。去年の反省を踏まえ、ウルチ、モチ共に消毒。

【昼休み】

- ・ 各自お弁当など。
- ・ 雲が切れ、日が差してポカポカの昼下り。小屋の前で地べたに座っての昼食。

【午後】

- ・ 播種した苗箱を倉庫前ハウスに運ぶ。
- ・ 苗箱を並べる台(白い鉄骨のやつ)の半面を使い、1段に4箱ずつ並べていく。
- ・ 苗箱は、保温のため1段毎にマルチシートでくるむように並べる。下段からウルチを50枚(=12.5段)、続いてモチ12枚(=3段)。最上段には土だけ盛った苗箱を重しとして置いた。
- ・ 更に保温のため、出来上がった苗箱タワーをハウス用透明ビニールで覆う。ロープで縛り完了。
- ・ 谷っ戸ん田の田起こし作業を行った。作業開始は少し遅く14:00過ぎ。開始した時点では、手作業で田んぼを均す作業のみをするつもりだった。
- ・ 先々週、川底からさらった泥がまだ田んぼに残っていたため、石や木っ端などを手作業で除去する。更に余分な土は畦の補強用に田んぼの外に盛る。
- ・ 焚き火跡とほうれん草を作っていた回りに切られていた溝を均す。
- ・ 園主が、トラクター3台(乗用2台、手押し1台)を出してくれた。1台はモンロー機構付き。
- ・ 去年は田起こしを失敗。深く起してしまったところがあったし、底がでこぼこになってしまったところもあった。
- ・ モンロー付のトラクターを使うとでこぼこにならないらしい。
- ・ モンローのないトラクターで田んぼを横にうなうとでこぼこがひどくなってしまう。これらは縦に走らせること。

- ・ 17:00 過ぎにどうにか全面の田起しを完了。
- ・ トラクターの泥をざっと落して園主に返却。17:30 に作業終了、解散した。

【次回予定など】

- ・ 田んぼに植わっていたほうれん草だが、抜いてきれいにし田起ししなくてはいけなかった。
- ・ 解散後、有志でひっこ抜き作業をした。ほうれん草はもう芽が出ていたが、食べられそうなところを各自もらって帰った。
- ・ 次週、くろつけと畦まわりの整備をする予定。今回できなかった竹林整備作業も行う予定。

(記録：磯 直行)